

「NPO 法人たがやすにおける援農ボランティアの取り組み」

“たがやす”は、2002年7月に設立総会をもち、10月25日東京都から認可、11月12日法人登記され、都市農業・農地を守ることを活動目的として設立されました。

I. 設立の背景と経緯

生活クラブ生活協同組合・東京は、生活クラブ組合員が長年続けてきた町田市内の一軒の地場生産者のナスの収穫援農活動に、2000年7月に組合員だけでなくタウン誌で参加者を募集したところ、50名を超える市民の応募がありました。この作業をきっかけに、農作業体験をしたいという思いをもつ市民が多数いることが分かり、また一方では手助けを希望する農家も現れました。

農業者と消費者の両者の思いをコーディネートし、都市農業の活性化に取り組もうと、生活クラブ生活協同組合町田センターの組合員が、中心となって「農作業受託組織設立準備会」を設置、援農組織の立ち上げの検討を始めました。

活動が一定規模に発展するまで任意団体で活動するつもりでしたが、その頃、町田市が緊急地域雇用創出特別基金事業の実施を予定しており、「援農の仕組みを、参加者の広がりのある法人格を持つ組織の形態とすれば補助できる」ということでしたので、2002年、市民20人と農家2軒の会員で急遽「農作業受託ネットワーク特定非営利活動法人たがやす」を設立しました。

II. たがやすの活動内容

幾つかの活動内容がありますが、今日の話題に関係することは、農業生産者の担い手不足を補う、**援農ボランティア** 活動と **市民農業研修** のことであろうかと思えます。

1. 援農ボランティア

2. 市民農業研修

次に、**市民農業研修**のことを話します。

① 町田市民農業研修農園

② 町田市農業研修農場

③ 学童体験農園

Ⅲ. たがやすが成功しているのは

1. 設立母体が、生活クラブ生活協同組合であったこと

- ① 社会参画や地域貢献活動の知識や活動に関する知識を持っていること。
- ② 提携生産者としての農業者と組合員の交流が親密であったこと。
- ③ 福祉分野で行なわれていた、有償ボランティアの仕組みを熟知していた職員がいたこと。

2. 援農会員の持続性

- ① 都市農業・農地を維持するという地域ニーズを反映した課題解決型・社会貢献型の活動であったこと。
- ② 設立当時は定年年齢が60歳で、体力的にも余裕があったこと
- ③ 役職や肩書きによらない対等なコミュニケーションを行い、地域において新たな人間関係が形成されていること。
- ④ 三大都市圏特定市市街化区域内農地の 終身営農で相続税納税猶予となる制度のことを学び、高齢者の農業者と交流すること。

Ⅳ. 長寿社会に輝く未来を目指して

こうれいしゃ は こうれいしゃ に

高齢者 → 幸励者

こうきこうれいしゃ は こうきこうれいしゃ に

後期高齢者 → 光輝幸励者